

2023 年 4 月 18 日

2023 年度第 1 四半期決算

バンク・オブ・アメリカは、2023 年度第 1 四半期決算を発表しました。

第 1 四半期業績【参考訳文(要旨)】

- 当期純利益は、2022 年度第 1 四半期における 71 億ドル(希薄化後 1 株当たり 0.80 ドル)に対し、15%増加して 82 億ドル(希薄化後 1 株当たり 0.94 ドル)となりました。
- 税引前利益は 15%増加して 91 億ドルとなりました。
 - 税引前・引当金計上前利益は 27%増加して 100 億ドルとなりました。
- 収益(支払利息控除後)は、13%増加して 263 億ドルとなりました。
 - 純受取利息は、金利の上昇及び堅調な貸出金の増加による恩恵を受けて、29 億ドル(25%)増加して 144 億ドルとなりました。
 - 非金利収益は、販売及びトレーディング収益の増加がサービス手数料の減少並びに資産管理手数料及び投資銀行事業手数料の減少を上回ったため、154 百万ドル(1%)増加して 118 億ドルとなりました。
- 貸倒引当金繰入額は、901 百万ドル増加して 931 百万ドルとなりました。
 - 2022 年度第 1 四半期においては 362 百万ドルの引当金の取崩し(純額)であったのに対し、124 百万ドルの引当金の積増し(純額)となりました。
 - 貸倒償却(純額)は前年度より増加して 807 百万ドルとなりましたが、依然としてパンデミック前の水準を下回りました。
- 非金利費用は、919 百万ドル(6%)増加して 162 億ドルとなりました。これは、人材及び技術のフランチャイズへの投資並びに FDIC に係る費用の増加によるものでしたが、収益関連のインセンティブ報酬の減少により一部減殺されました。営業レバレッジは 7%、営業効率は 62%となりました。

- 平均貸出金及びリース金融残高は、商業貸出金の堅調な増加及びクレジット・カード残高の増加により、640 億ドル(7%)増加して 1.0 兆ドルとなりました。
- 期末現在の預金残高は、2022 年度第 4 四半期と比較して 200 億ドル(1%)減少して 1.9 兆ドルとなりました。平均預金残高は、1,520 億ドル(7%)減少して 1.9 兆ドルとなりました。
- 平均グローバル流動性は、8,540 億ドルとなりました。
- 普通株式等ティア 1(CET1)比率は、2022 年度第 4 四半期から 14 ベーシス・ポイント上昇し、11.4%(標準的アプローチ)となりました。普通株式配当及び株式の買戻しにより、株主に対して 40 億ドルを還元しました。
- 普通株式 1 株当たり純資産は、6%増加して 31.58 ドルとなりました。普通株式 1 株当たり有形純資産は、9%増加して 22.78 ドルとなりました。
- 平均普通株主持分利益率は、12.5%となりました。平均有形普通株主持分利益率は、17.4%となりました。

プレスリリース原文および注記は[こちら](#)をご参照ください。

※特に注記のない限り、記載されている比較(%)は前年同期比、また貸出金および預金残高は平均して表示しています。